

高校バレー県大会

都市大女子が初優勝

男子は創造学園が連覇

第64回全日本バレーボール高校選手権大会の県代表決定戦が13日、長野市のホワイティングで行われた。男子は創造学園が連覇、女子は都市大塩尻が東海大三を下して初優勝を果たし、中信勢が県大会を制した。(小岩井貴之)



初優勝を果たし、岡田隆安監督を胸上げする都市大塩尻の選手たち

男子の創造学園は準決勝で大町に2-0で快勝した。長野日大との決勝は第1セットを先取されたが、第2セットは主将の柳沢広平(3年)が4連続スパイクを決めるなどで奪い返し、3-1で下した。女子の都市大塩尻は準決勝で長野日大を2-0で下し、決勝の

東海大三戦も1年生の活躍が光り、3-0でストレート勝ちした。全国大会は来年1月5日、東京都の東京体育館で開幕する。

創造学園

重圧に耐え再び頂点に

「ここまで来るのに2年半かかった。選手たちが仲間を信じ、自分を信じてやり遂げてくれた結果だ」。前々回、前回と続いて3回目の挑戦となった東海大三との決勝戦を制した都市大塩尻の岡田隆安監督は試合後、感無量の表情で語った。3-0の完勝だった。

セッターの松尾奈津子(2年)を中心に、新戦力の1年・牧田春奈、宮嶋望帆にボールを集めて得点を重ね、終始優勢を保った。第3セットは、スパイクミスの失点が9点とやや目立ったものの、25-18で下した。創部3年目。選手たちは、油性ペンで右手の甲に「勝」の字を書き、左手には



連覇を果たし、応援席に笑顔で応える創造学園の選手たち

大との対戦となった。利したが、8月のイン創造学園は3-1で勝ターハイで日本一を獲得

(小岩井貴之)

得したプレッシャーもあり、壬生義文監督は「全国大会よりも怖い県大会だった。最後は3年生の意地が上回った」と振り返った。

第1セットは序盤に試合がもつれ、要所のスパイクを長野日大のブロックに阻まれるなどして24-26と競り負けた。第2セットは25-14で奪い返したが、第3セットでリベロの滝野頼太(3年)が、第4セットで柳沢広平主将(同)が相次いで太ももやふくらはぎをつつて痛め、一時交代するなど「満身創痍」での試合となった。滝野は「プレッシャーに押しつぶされそうになった」。柳沢は「2セット目から足がブルブル震え始めた。情けなかったが『勝ちたい』という気持ちで押し切った」と話した。

(小岩井貴之)